

世帯のネット金融利用意向と不安に関する分析

— ネット金融利用経験の差異に着目して —

小原 宏[†] 大江 宏子[‡]

日本郵政株式会社[†] 横浜国立大学経営学部[‡]

1. はじめに

近年わが国では、インターネットの利用世帯が増加する中で、ネット上での金融サービスの利用が拡大しつつある。一方、フィッシング詐欺など、ネット金融の利用の進展に伴う問題も増加しつつあり、利用に伴う不安も存在している。

本報告では、ネットフィッシング詐欺の発生以降、総務省(2006)等多くの文献で指摘されている「ネット金融利用に関するセキュリティの問題」に着目しつつ、今後のネット上での金融サービスの利用に関する世帯の意向に与える要因について明らかにする。さらに、これからのネット金融利用が見込まれる世代であって、インターネット経験とネット上でのサービス利用に関するスキルが一般の者と比較して相対的に高いと推測される世代である大学生を対象とした調査から、上記の意向と不安の存在について補足する。

2. 使用データ

本報告で使用したデータのうち、一般世帯を対象とした分析に用いたものは、郵政総合研究所が2年おきに全国の世帯を対象として実施している「暮らしと金融機関利用に関する意識調査」の結果である。この調査では、世帯の属性や保有資産、ネット金融の経験についての設問があり、また、利用の有無を問わず、それらに対する意識や今後の利用意向についても詳細な質問項目が設けられている。

本報告では、これらの調査のうち、最新調査である2005年の結果とその一つ前の調査である2003年の結果を分析対象とした¹。具体的には、この調査結果のうち、世帯のプロフィールやネット金融の利用状況など分析に必要な項目にすべて回答した単身及び2人以上の普通世帯を対象として分析を行った。

以下、一般世帯を対象とした利用データを概観すると、対象サンプル数は6,977票、世帯主の平均年齢は52.8歳、世帯年収300万円未満の

割合は28.4%となっている。また、被説明変数である今後の利用意向を有する世帯は24.6%となっている。

3. 分析モデルおよび変数の概要

以下では、今後、ネット上でバンキング・証券・生命保険等何らかの金融サービスを利用したい意向の有無(意向あり世帯=1、他=0)を被説明変数とする分析を行う。このように被説明変数が質的変数であることから、本分析にはプロビットモデルを用いる。

また、説明変数は世帯の属性や居住地のほか、ネット金融の利用経験の有無、およびネット金融に関する利用意識のうち「セキュリティ(防犯対策上)不安がある」・「24時間利用できる」の回答を用いた。

4. 一般世帯を対象としたネット金融の利用意向分析結果

(1) 有意な変数

ネット金融の利用経験がある・なしにかかわらず、今後、何らかのネット金融に関する利用意向のある世帯について分析した結果をみると、年次ダミー(2005年=1)、世帯主年齢二乗項(負)、世帯年収階級ダミー400万円以上～2,000万円未満の世帯(各階級とも正)、人口5万人未満の市(負)、ネット金融の既利用世帯ダミー(正)、ネット金融に対する意識(「24時間利用できる」・「セキュリティ(防犯対策)上不安がある」とも正)、となっている。

(2) 結果概要

上記のうち、限界効果に着目すると、「ネット金融の利用経験ダミー」及び「24時間利用できる」の値が大きい。前者は経験することによって利用可能性が認識され、今後の利用意向につながっていると考えられる。また、後者は時間的な制約を受けずに利用できることが大きな効果となって利用意向に反映されると考えられ、一般的な想定と整合的である。また、今回着目した「セキュリティ(防犯対策上)不安がある」については限界効果としては小さいながら正に有意となっており、不安が利用を増加する方向に効いている。漠然とした不安というよりは、ネット金融に関心を持って捉えている世帯であるため今後の利用意向につながる、ある

¹ 詳細は、旧郵政総合研究所調査概要ページhttp://www.yu-cho-f.jp/research/old/research/kinyu/kan_index.htmlを参照されたい。

いは、不安は抱きつつ、今後のネット金融の発展を見込んで利用意向を持つ、といったことが考えられる。

ちなみに、このような傾向は、昨年の報告のうち一般のネット送金・決済に比べて安全性が高いとされるペイジーの今後の利用意向の分析においても（「ネットオークションに関する「セキュリティが不安」が（正）」）となっている。

5. 大学生を対象とした分析の補足

上記の傾向について、今後の利用が見込まれる大学生の状況を、限定的なサンプルではあるが、首都圏の国立大学の経営系学部及び私立大学の情報経営系学部の計 282 票から把握してみる（同サンプルは、2007 年 12 月から 08 年 1 月に掛けて非ネット調査により得られたものである）。これらの回答から「セキュリティ上の不安」があるとする者が「ネット金融を利用したい」とする割合をみると、回答全体の 12.8%程度がそのように回答している。クロス集計ではあるものの、上記の分析結果と同様、は「セキュリティ上の不安」を抱えつつ、「ネット金融を利用したい」との意向を持っている者が一定程度存在することが確認できた。今後、このサンプルについては、計量的な手法による分析を加え、両者の関係をより精緻に確認することとしたい。

6. まとめ

以上、一般世帯の今後のネット金融に関する利用意向に影響を与える要因を検討してきた。

その結果、現時点ではネット上での金融取引経験が今後のネット金融利用の意向に正の影響を与えており、その限界効果が大きいこと、利用におけるセキュリティ上の不安も利用意向に正の影響を与えていることなどがうかがえる結果となった。

これらについては、さらに精緻な分析やデータの蓄積が必要であるものの、これらの背景にあるインターネットやネット上での取引、決済等の利用は一層進展することが明らかであることから、いかにして初期の利用につなげるかが重要な課題となる。そのため、よりサービスの周知に努めるとともに、アクセスの改善に配慮しつつセキュリティの向上を図っていくことが求められることとなろう。

【参考文献】

一木美穂(2002)「インターネット・バンキングについて ―アンケート調査にみる利用動向と課題」『郵政研究所月報』、No. 162、

pp. 49-57

大塚時雄、大江宏子(2006)「消費行動における金融機関アクセシビリティに関する実証的研究」2006 年度生活経済学会関東部会報告論文、東京家政学院大学

小原宏(2006)「近年における世帯のインターネット金融の利用要因分析」2006 年度生活経済学会関東部会報告論文、東京家政学院大学

鴨池治(2002)「ネット金融 ～ITが金融に与える影響～」『情報技術と社会』、東北大学出版会、pp. 53-63

栗原裕(2004)「郵便貯金とIT革命」、平成 16 年度に本郵政公社東海支社委託研究報告書

経済産業省(2005)「平成 16 年度電子商取引に関する実態・市場規模調査」

総務省(2006)「平成 18 年 情報通信に関する現状報告 特集―ユビキタスエコノミー」

APWG “APWG PHISHING ACTIVITY TRENDS REPORT” 各年月版 <http://www.antiphishing.org/>

表 プロビットモデルによる推定結果

	係数	標準誤差 (Robust)	z値	限界効果
年次ダミー(2005=1)	-1.6429	0.0625	-26.31 ***	-0.4064
同居者数	0.0061	0.0150	0.41	0.0015
世帯主年齢	0.0087	0.0102	0.85	0.0021
同 二乗項	-0.0002	0.0001	-2.22 **	-0.0001
世帯年収階級ダミー(ベースは0～300万円未満)				
300万円～	0.1663	0.0698	2.38 **	0.0421
～500万円未満	0.1877	0.0723	2.60 ***	0.0480
～600万円未満	0.2670	0.0756	3.53 ***	0.0705
～700万円未満	0.3059	0.0841	3.64 ***	0.0824
～800万円未満	0.2859	0.0862	3.31 ***	0.0766
～1000万円未満	0.2676	0.0833	3.21 ***	0.0710
～1500万円未満	0.1953	0.0906	2.16 **	0.0505
～2000万円未満	0.3955	0.1648	2.40 **	0.1123
～5000万円未満	0.0531	0.2309	0.23	0.0130
持ち家ダミー	-0.0114	0.0523	-0.22	-0.0027
居住地ダミー(ベースは東京都・政令指定都市)				
15万人以上の市(上記を除く)	0.0146	0.0535	0.27	0.0035
5万人以上15万人未満の市	0.0040	0.0611	0.07	0.0010
5万人未満の市	-0.2693	0.0965	-2.79 ***	-0.0566
町村	-0.0605	0.0642	-0.94	-0.0142
ネット金融の既利用世帯ダミー	1.7071	0.0815	20.95 ***	0.5840
ネット金融に対する意識				
24時間利用できる	1.0640	0.0560	19.01 ***	0.2930
防犯対策上不安がある	0.2051	0.0509	4.03 ***	0.0505
定数項	-0.6698	0.2358	-2.84 ***	
サンプル数	6,977			
マクファーデンの疑似決定係数	0.3565			

***、**、*は、それぞれ1%、5%、10%水準で有意。